

株式会社テクノマセマティカル

平成21年3月期＜第9期＞ 決算説明会

■ Algorithm Specialist

TMC

平成21年5月21日

ご注意:本資料は実際の説明会で使用されたものの抜粋です。あらかじめご了承ください。

Agenda

1. 事業概要
2. 平成21年3月期決算の概要
3. 主要な売上指標の推移
4. 平成22年3月期業績見通し
5. Next 2011中期事業計画について

本説明会および説明会資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づいて、当社が判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。

実際の業績等は、さまざまな要因の変化等により、これらの見通しと異なることがありますことをご了承ください。

1-1 当社の基幹業務について

新しい独自の
技術を生み出
し、それらを用
いて

標準規格に準
拠した映像・音
響関連の製品・
技術を開発し

国内外の電機
メーカー、半導体
メーカーに

ライセンス提
供しておりま
す。

- ①高圧縮率、
- ②高画質、
- ③低消費電力、
- ④**低遅延**

が実現できるデータ圧縮技術を開発、提供し続けます。

1-2 当社の基幹業務について

2000年6月設立当初から

“アルゴリズム開発” をビジネスの基幹と位置付け

DMNA

(Digital Media New Algorithm)

テクノ マセマティカルが開発したアルゴリズムの愛称

画像/映像

音響/音声

DMNAを圧縮／伸張処理に応用

ソフトウェアIP

ハードウェアIP

単機能LSI

応用システム事業

1-3 当社事業の特徴

1. 独自技術により、差別化された製品

「DMNA」を核とした独自アルゴリズム



2. 利益逡増型の収益構造

ライセンス・ロイヤルティモデルを主体とした収益力

3. 全世界に展開可能

国際標準規格準拠、日本発の映像／音響製品

4. 業容拡大による収益力の向上

売上・利益の絶対額増加、3本柱の確立

2-1 業績の推移

- ◆ 売上高 前期比 9.9%増となるも コストを賄いきれず 経常減益幅 やや拡大
- ◆ 単機能LSI関連の特別損失などが響き 大幅な当期純損失計上を余儀なくされた



2-2 損益計算書 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位：百万円)

	当 期 (H21/3期)	構成比	前期比	前 期 (H20/3期)
売 上 高	552	100.0%	109.9%	502
売上総利益	297	53.8%	100.1%	296
販売管理費	573	103.9%	105.4%	544
営 業 利 益	△276	△50.1%	—	△247
経 常 利 益	△261	△47.3%	—	△236
当期純利益	△511	△92.6%	—	△140

2-3 貸借対照表 (平成21年3月31日)

(単位:百万円)	2009/3末	構成比	対前期末比 増減	2008/3末
流動資産	3,661	94.6%	▲438	4,099
固定資産	210	5.4%	23	187
資産合計	3,871	100.0%	▲414	4,286
流動負債	147	3.8%	84	63
固定負債	—	—	—	—
純資産	3,723	96.2%	▲499	4,223

2-4 キャッシュ・フロー計算書推移

(単位:百万円)	H21/3期 第2四半期	当 期 (H21/3期)	対前期比 増減	前 期 (H20/3期)
営業活動による キャッシュ・フロー	Δ23	Δ86	15	Δ101
投資活動による キャッシュ・フロー	Δ4	Δ93	Δ 85	Δ8
財務活動による キャッシュ・フロー	—	12	Δ0	12
現金及び現金同等 物の増減額	Δ27	Δ167	Δ 69	Δ97
現金及び現金同等 物の期首残高	3,517	3,517	Δ97	3,615
現金及び現金同等 物の期末残高	3,490	3,350	Δ167	3,517

2-5 業績予想との差異について

(単位:百万円)	直近の予想 (平成21年2月6日)	実 績	差異金額	増減率
売 上 高	520	552	32	6.1%
経 常 利 益	△311	△261	50	—
当 期 純 利 益	△559	△511	48	—

プラス面

◆ハードウェア部門の売上げが見込みを若干上回り、売上高は予算超過

マイナス面

◆売上の予算超過、経費節減及ばず、特別損失（123百万円）、税調整（124百万円）などの一時負担費用重く最終損失水準は高止まった。



- 特別損失は単機能LSI関連資産の償却
- 税調整は繰延税金資産の費用計上

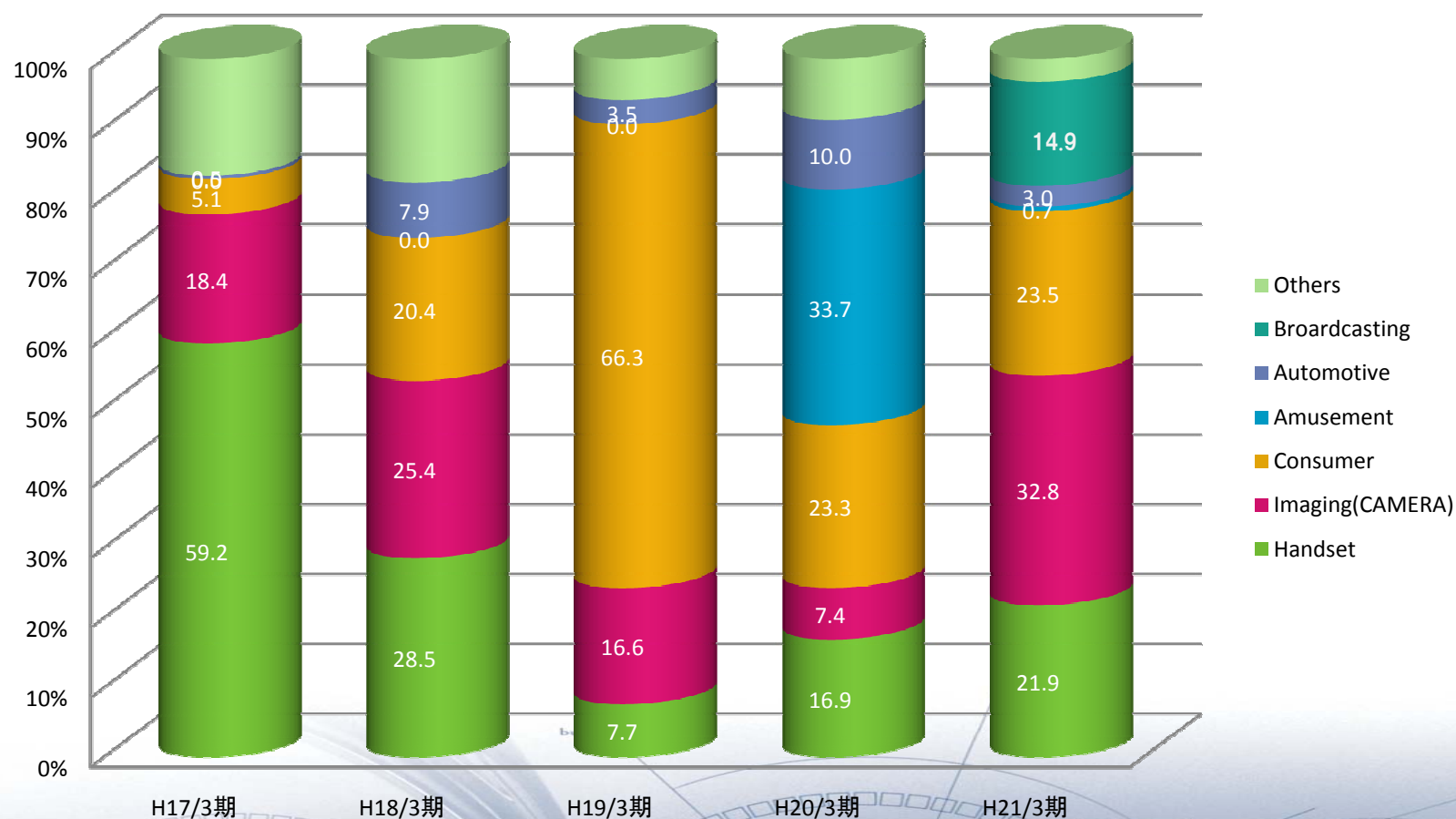


いずれも一過性の
もので、今後の損
益に影響残さず

3 売上の内訳(対象市場別)

◆携帯電話、カメラ関連の構成比が増大

◆動画配信システム関連をBroadcastingとして区分け



4 H22/3期業績見通し

(単位:百万円)

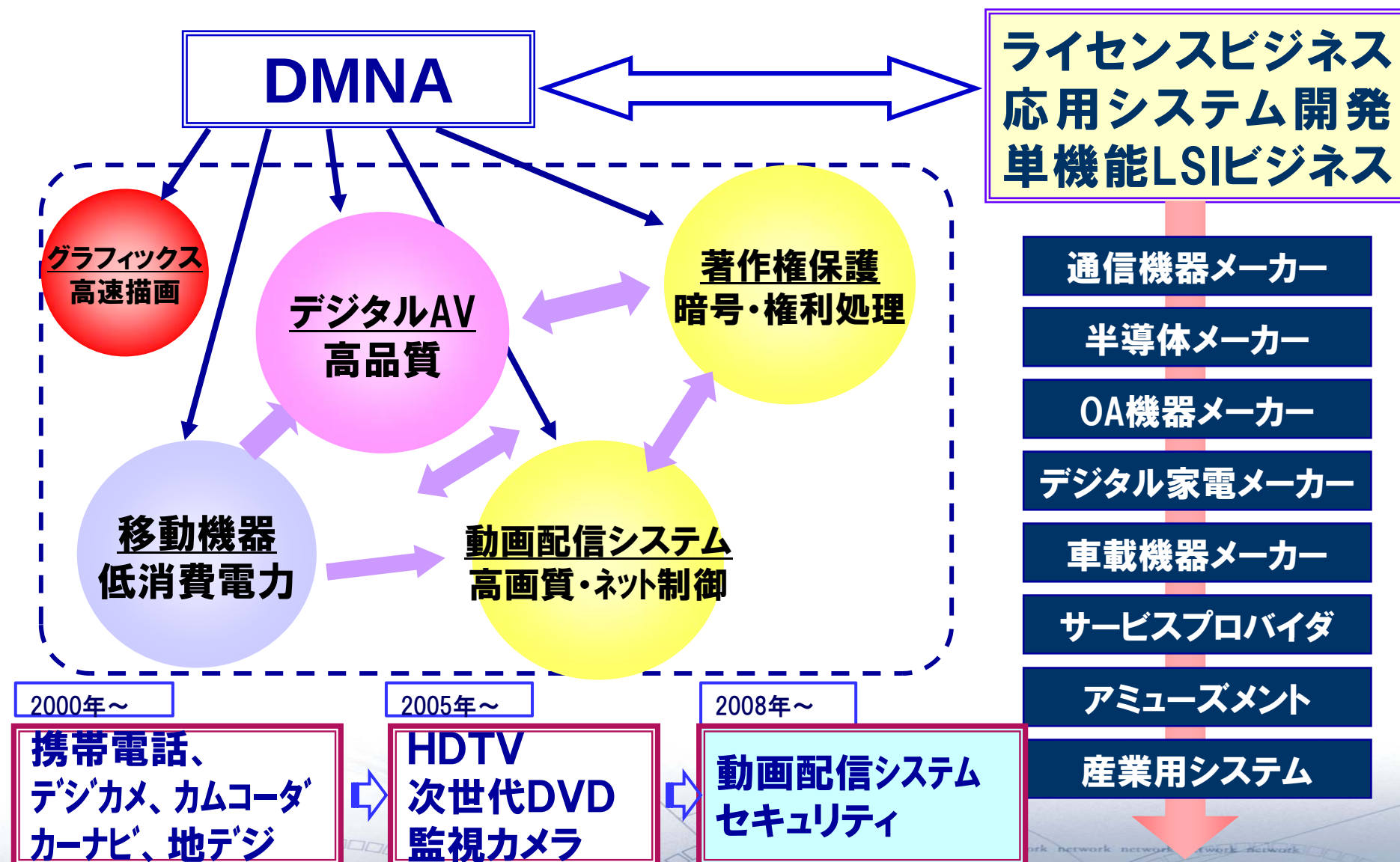
	予 想	増減	増減率	H21/3期実績
売 上 高	810	+257	+46.7%	552
経常利益	△226	+34	—	△261
当期純利益	△230	+280	—	△511

◆ ソフトウェアライセンス＝ワンセグ・フルセグ中心に需要見込む

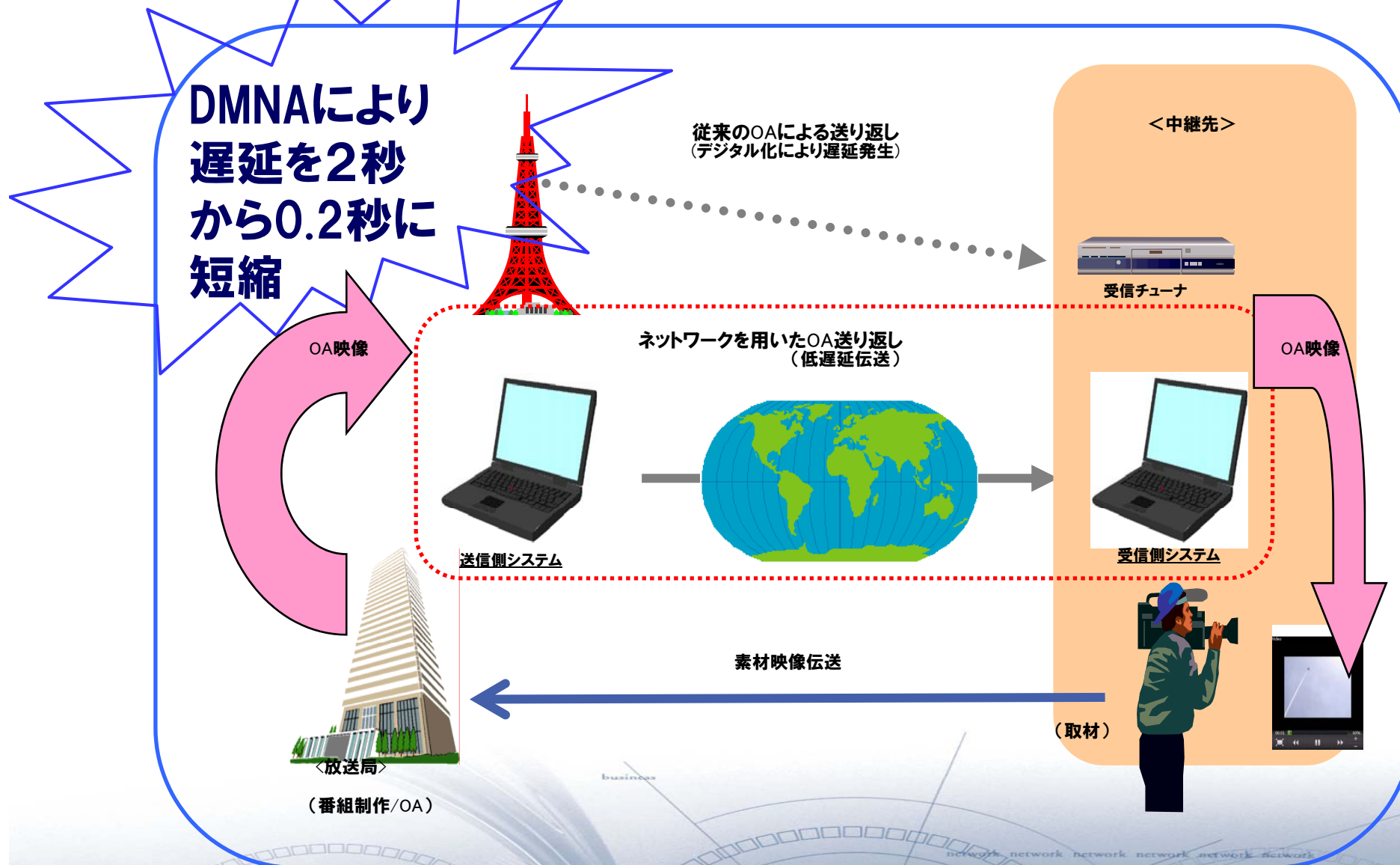
◆ ハードウェアライセンス＝DMNA－Vシリーズを製品特徴毎に区分して見込客へ販売強化

◆ 単機能LSI＝超解像スケーラLSIの本格販売

5-1 ビジネス展開

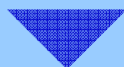


5-2 低遅延OA送り返しシステム (日テレとの共同開発)

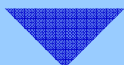


5-3 Next 2011

平成21年3月期



平成22年3月期



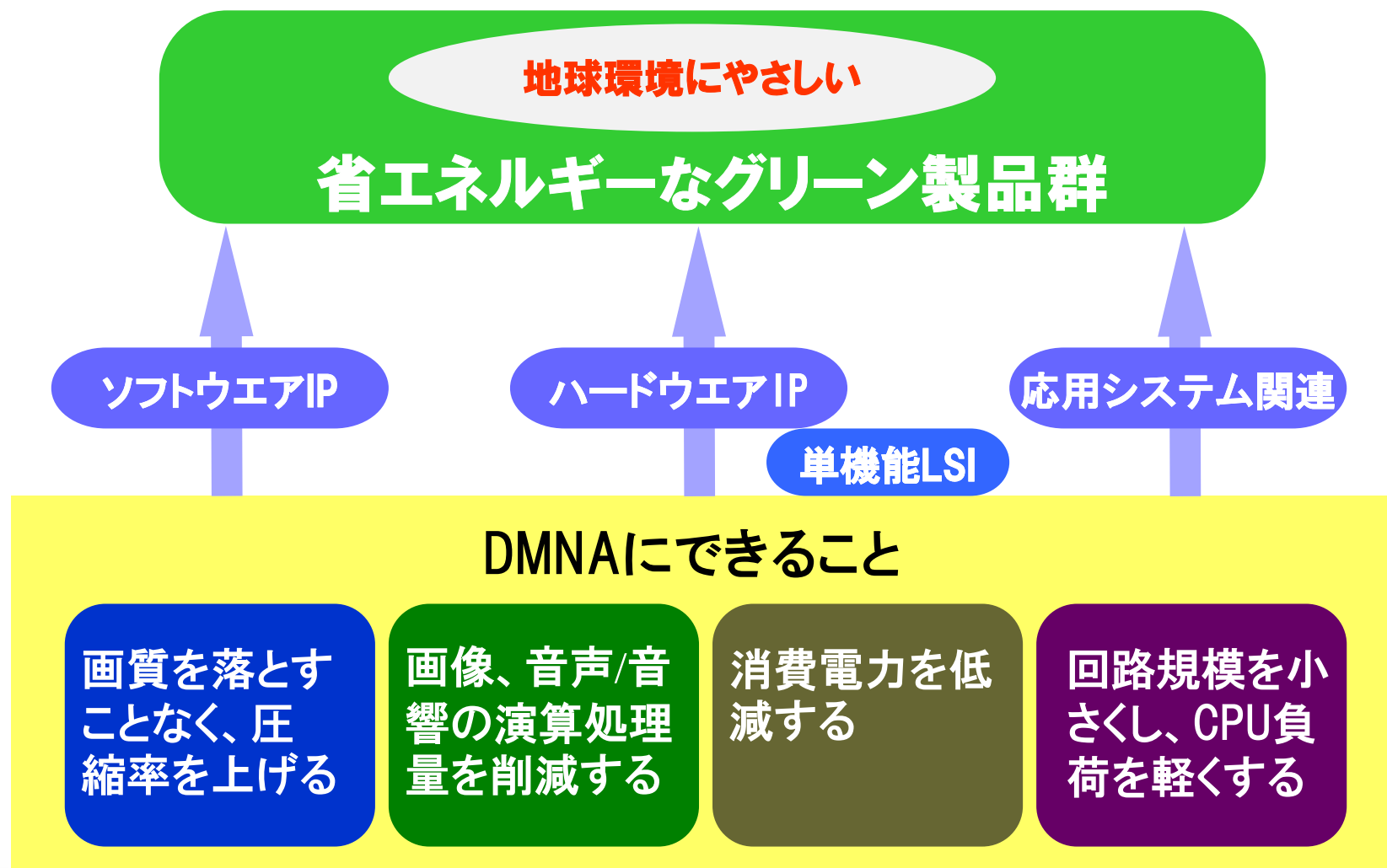
平成23年3月期

今期は中期3ヶ年計画の2年目

◎既存のハードウェア、ソフトウェアの両分野に加え、これらを応用したネットワーク関連分野に本格展開していく。

◎単機能LSIは、超解像スケーラLSIを投入、さらなる新商品開発を進める。

5-4 中期ビジネス拡大への布石



アルゴリズムの分野で 世界のスタンダードになる！

ご清聴ありがとうございました。

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性に関する責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。ここに示した意見は、本資料作成日現在の当社の意見を示すのみです。当社は、本資料中の情報を合理的な範囲で更新するようにしていますが、法令上の理由などにより、これをできない場合があります。

本資料および説明会内容についてのお問い合わせ先

株式会社テクノマセマティカル 経営企画部

TEL:03-5798-3636 E-mail:ir@tmath.co.jp